

人と自然が共存するまち



秋田市では、水と緑、多様な生き物たちが住む豊かな自然環境のバロメーターとして、5年に一度、ホタルの生息状況調査をおこなっています。

自然が豊かな秋田市では、多くの場所でホタルを見ることができます。ホタルの観察をとおして、身近な自然に関心を持ち、自然に親しみ、自然を守ろうとする心を育むきっかけにしてみはいかがでしょうか？

ホタル観察など
身近な自然に関心をもとう！

身近な自然に親しまおう！

自然を守ろう！



ホタル講座の様子



山谷小学校 ホタル観察会の様子



ホータル会(広面)の活動の様子



おのほホタル会の活動の様子

日本のホタル

現在日本列島には2科10属46種(2亜種)のホタルが記録されており、そのうち成虫で光るのは14種あります(幼虫期には全ての種が発光する)。「ゲンジボタル」は日本固有の種であり、九州から東北まで広範囲に分布し、山間部だけでなく平地でもきれいで安定した流れのあるところに生息しています。また、「ヘイケボタル」は九州から北海道、さらには東シベリアや韓国にも分布し、湿地や水田を取り巻く水辺環境に生息しています。南西諸島にはまだ未知種を含めて、固有なホタルが生息し、日本列島の地史的背景やホタルが巡ってきた道を明らかにする上で重要な種が生息しています。しかし、これらのホタルは、都市部では絶滅したり減少している地域が少なくないといわれています。

秋田のホタル

秋田市内では、ゲンジボタルおよびヘイケボタルが多数生息していることが確認されています。また、山間部ではオバボタルもみられます。

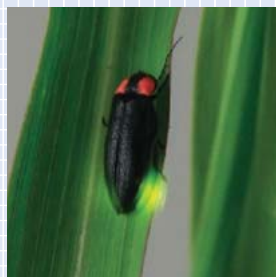
ホタルの発生時期は、ゲンジボタルが6月中旬から7月中旬まで、ヘイケボタルが6月下旬から8月上旬までであり、7月上旬に最も多く見られるようです。

5年前に行った調査結果と比べると、ゲンジボタル、ヘイケボタルともに生息が確認できた場所が増えています。

また市街地などで多数のヘイケボタルの生息が確認できた場所が新たに見つかりました。



ゲンジボタル



ヘイケボタル



オバボタル

ホタルの一生

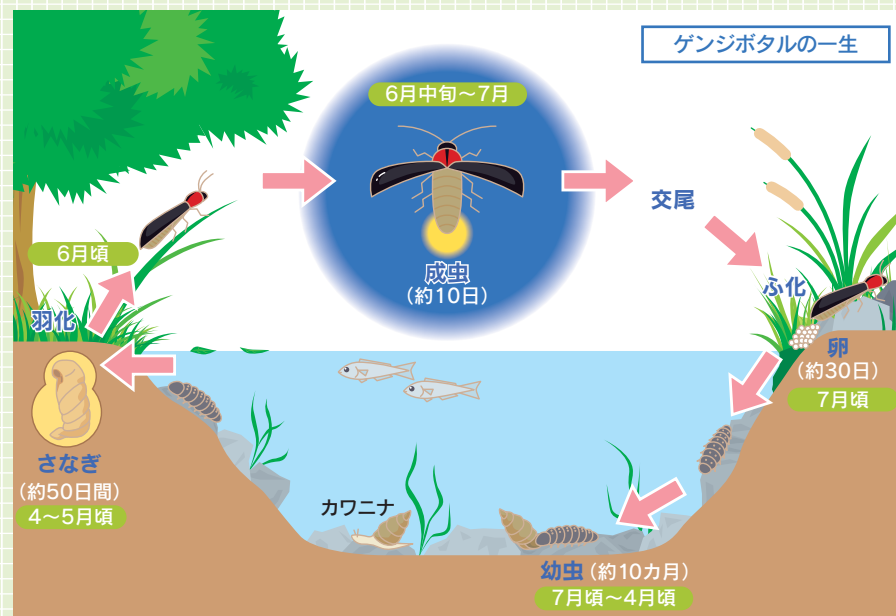
6月から7月にかけて、ゲンジボタルのメスは交尾したあと、川岸の水ごけなどに500~1000個近く(ヘイケボタルは50~100個)の卵を産み付けます。

卵を産み終わると、オスもメスも死んでしまいます。成虫になって10日ほどの短い命です。

卵は約30日でふ化します。生まれたての幼虫は、はって川の中に入り、カワニナという貝を食べながら(ヘイケボタルはタニシなども食べる)10カ月以上、長いときで2年間も水中生活を送ります。この間、幼虫は5~6回脱皮を繰り返し成長していきます。

成長した幼虫は、4月中旬から5月、雨がふる夜に川岸にはいあがって土の中にもぐり、土まゆを作ります。幼虫はこの中でサナギとなり、約50日後(ヘイケボタルは約30日後)に羽化し成虫となります。そして約30日後、羽がかたく黒くなると地上に出てきます。

こうして、一年かけてようやく成虫になったホタルは、日中は水辺の草むらなどに潜み、夜になると異性を求めて発光しながら川の近くを飛びかいます。



ホタル観察のポイント

- 水が1年を通して枯れることなく流れているところ
- 川岸が植物におおわれていて、木かげになっているところ
- 夜、川のまわりが明るくないところ
- ホタルのえさとなるカワニナやタニシなどが多く生息しているところ
- 川底に幼虫がかくれるための小石などが点在しているところ
- 山間部の水田などで堰にU字溝がはいていないところ

ホタルはこのような場所を好みます。
日中このような場所を探しておく、夜に観察しやすくなります。

ホタル観察のマナー

- **観察のためつかまえたホタルは観察が終わったら必ずかえしてあげましょう**
- 水辺には思いがけない危険がいっぱいです
周囲に注意して観察しましょう
- 周囲に迷惑をかけないように観察しましょう
- 大声を出さないようにしましょう
- 懐中電灯を使用するとしても控えめにし
ホタルの眼に与える影響を和らげましょう
- あぜ道を踏みつぐさないようにしましょう
- 長袖・長ズボンを着用して、虫さされを防止しましょう
- 夜間8時頃に出現のピークを迎える
ことが多いので、帰宅時間を考慮して
観察に出かけましょう



ホタルマップについて

私たち人間を含め、全ての生物は、自然がもたらす恵みの中で互いに調和し生命を育んでいます。しかし、人間の営みがあまりにも大きくなりすぎ、この調和が崩れようとしています。

私たちは、豊かな生活を目指しつつ、次の世代にもより良い環境を引き継いでいかなくはなりません。それには、私たち一人ひとりが自分にできることから取り組むことが大切です。

秋田市では、市民の皆様が身近な自然に目を向け、環境問題により関心を持っていただくため、平成6年度から5年ごとに、夏の風物詩として昔から親しまれてきたホタルの生息状況調査を行い、「ホタルマップ」という形で公表し、これまで多くの皆様から活用していただけてまいりました。

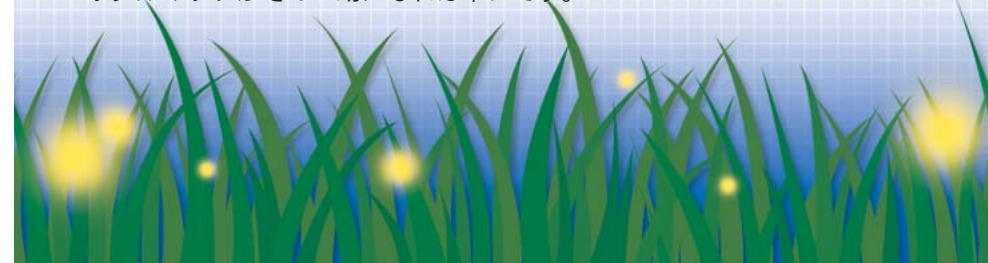
平成21年度版ホタルマップ作成にあたっては、秋田県自然観察指導員連絡協議会秋田市支部の全面協力を得たほか、市内の小学生や地域で活動を行っている皆さん、その他の多くの方々からたくさんの情報をいただきました。皆様の積極的なご協力に厚く感謝申し上げます。

今回の調査を通して、本当にたくさんの方がホタルに関心を持ち、地域や学校でホタル観察やホタルの生息環境の保全に熱心に取り組んでいるということがわかりました。

また、秋田市内には、広い範囲にわたり、数多くのホタルが生息し、水と緑が一体となった優れた自然環境が残されていることを改めて確認することができました。

この美しい郷土の自然を守り、次世代に伝えていくのは私たちの責務です。こどもから大人までみんなで力をあわせて、この豊かな秋田の自然を、かけがえのない大切なものとして守り、育てていきましょう。

ホタルマップがその一助になれば幸いです。



【秋田エコマップシリーズ8】

秋田市ホタルマップ

ホタルの飛び交う環境
それは私たち人間にとっても
かけがえのない環境です



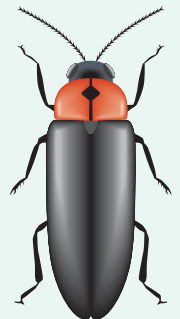

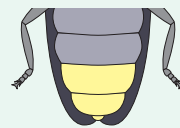
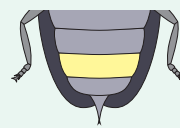
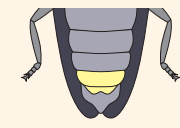
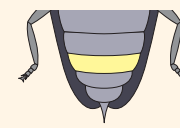
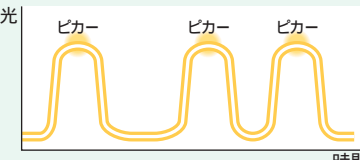

【編集・発行】

秋田市環境部環境企画課
秋田市寺内蛭根3丁目24-3
TEL.018-863-6632

【協力】

秋田県自然観察指導員連絡協議会
秋田市支部（ナトゥーア秋田）

ゲンジボタルとヘイケボタルの見分け方

種類	ゲンジボタル [成虫]	ヘイケボタル [成虫]
体長	[オス] 約15mm [メス] 約20mm	[オス] 約8mm [メス] 約10mm
かたち	 <p>赤い背中(前胸)に黒い十字形かトランプのダイヤのような模様があります。</p>	 <p>赤い背中(前胸)に黒い帯のようなたての模様があります。</p>
発光器	 <p>[オス] 腹部第5～6節</p>  <p>[メス] 腹部第5節</p>	 <p>[オス] 腹部第5～6節</p>  <p>[メス] 腹部第5節</p>
発光の仕方	 <p>約4秒間に1回(西日本では約2秒間に1回)</p>	 <p>約1～2秒間に1回</p>

※一般にゲンジボタルがヘイケボタルより大きいのですが、大きさを区別できないときは、前胸の模様で区別します。